

## 第7回 第5期武蔵野市緑化・環境市民委員会記録

●日時；平成28年8月22日（月）19：00～21：00

●場所：武蔵野市役所813会議室

●出席者（敬称略）：

<委員長> 小田 宏信

<副委員長>大森 克徳

<委員>榎本 一宏、梅田 彰、櫻井 勝實、  
町田 光司郎、小松 由美、鈴木 圭子、三浦 香澄

<事務局> 武蔵野市環境部緑のまち推進課、国際航業（株）

●次第

1. 開会
2. 議事（1）第6回委員会振り返り
3. 議事（2）第7回委員会
  - ① 緑の質
  - ② 市民が描く将来像
4. その他（1）日程等について
5. 閉会

●発言要旨

1. 第6回議事要録について

①第6回の議事要録については了承した。

2. 第6回委員会振り返りについて

①民有地の緑を支えるため、活動にはボランティアの力が必要である。継続的に取り組むにはやりがいとなるような仕組みが必要である。

②民有地の緑を支えるには市民の力も必要である。気軽に参加したいと思える取り組みがあると良い。何ができるか考えていくことが必要である。

③民有地と公有地の緑は区分なく、公共の財産であるという意識付けが必要である。

④緑の健康への効果は広く知ってもらうことで緑の重要性の理解が深まる。緑の活動を通じて健康づくりにもつながっている取り組み事例もあり、ボランティア活動を考える上で重要な観点である。

### 3. 緑の質について

- ①景観的な緑の質として量だけではなく、樹種の多様な使い方や見せ方が重要である。
- ②緑が多いと感じられる要因の一つとして、昔から個人住宅に庭木を植える風土・習慣が残っていることがあげられる。庭木や生垣で家の周りを囲む風土を守ることが重要である。
- ③緑の質には社会的意義と自然環境の2つの面を持っている。自然環境の面としてヒートアイランド現象の抑制がある。小金井公園や井の頭恩賜公園等の大規模緑地がクールアイランドとして機能しており、風の通り道をつくり、涼しい空気をまちに呼び込む取り組みも緑の質の向上となる。
- ④吉祥寺地区では、緑を増やすことは難しいが商業地は屋上が多い。屋上緑化の整備を推進し、井の頭恩賜公園の緑とネットワーク化を図り、吉祥寺のまちなかに井の頭恩賜公園の涼しい空気を取り込むことを考えても良いのではないか。
- ⑤街路樹について樹木が大木化し、植樹マスが小さいものが見受けられる。特性に応じた樹種を考えていく必要がある。

### 4. 市民が描く将来像について

- ①今後財政状況が厳しくなる中で、現在の良好な緑化状況を維持するためには民間活力と地域力は重要である。武蔵野市の緑を支援したいと考える企業と関係を築いていくことも重要である。
- ②大規模開発で整備された緑地についても、「共有財産として地域で守り育てる緑」であり、維持管理の支援があっても良い。
- ③武蔵野市に緑が多いと感じられる要因として、人目につくところに緑が多いことにある。効果的な緑の配置誘導、接道部緑化を重点的に進めることは重要である。

### 5. その他について

- ①9月3日に市民ワークショップを開催予定である。
- ②第8回委員会は10月14日に開催予定である。